

入 道 整 収 180号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

入間市長 木 下 博



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

このことについて、別紙のとおり回答します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

《当市の現状》

○市道の整備及び維持・補修予算の状況

当市は、三位一体改革による地方交付税制度の見直しに伴い交付税不交付団体となったことにより、財政状況は一層厳しいものになっています。扶助費等の伸びもあり義務的経費の割合が増加し、投資的経費は縮小せざるを得ない状況にあります。そのため、市道の整備や維持・補修予算への一般財源の投入も減少し、近年は道路特定財源だけと言っていいほどまでに落ち込んでいます。道路改良工事等道路整備を先送りするなどに対応していますが、舗装補修事業も大幅に遅れており、橋梁の補修にまでは予算がまわらない状況にあります。

○道路行政の課題

道路や橋りょうの多くが補修の時期を迎えており、現在の財政状況からみても今後の課題は維持・補修を重点にしたものに変えていく必要があります。特に橋りょうについては、主要幹線道路の橋りょう耐震化と老朽化した橋りょうの計画的な補修が大きな課題です。また、市内を縦貫する国道や県道の交通量が多く、慢性的な交通渋滞となっていることから、渋滞を避けて生活道路に進入してくる通過車両が安全上問題となっています。バイパス的な市道の新設や拡幅は、時間的にも費用的にも困難であり、市街地を縦断する国道や県道の交差点改良(右折帯の設置や信号機の改善)による渋滞解消がより現実的な課題となっている。

○道路行政に対する改善点、要望・提案

市民の要望は、国道や県道の渋滞解消や歩道整備など道路の安全に関するものが多く、一方では生活に密接する道路の整備や補修の要望が多くなっています。道路特定財源の一般財源化で問題で話題になった「ムダな道路」等の批判も、市民の日常的に使用する道路、通勤・通学時間帯の渋滞や安全、生活に密着した道路の整備や補修が市民の目に見える形で進んでいないことも大きな要因だと考えています。こうした道路の整備は補助対象ではなく地方自治体の予算で行われる道路です。しかし、現在の市の財政状況では、以前のように一般財源を投入して進めていくことは困難です。前述したように、当市の道路予算は道路特定財源がほとんどの実態にありますので、道路特定財源の一般財源化に関する論議が今後どのように展開されていくのか重大な関心を持っています。一般財源化の論議よりも、地域住民が求めている身近で生活に密接する道路の整備による住環境の改善について検討されるべきだと考えています。一般財源化ではなく、国民の住環境の改善を重点にした地方への財源の配分について検討いただきたい。

当市には、国道16号、299号、299号バイパス、407号、463号、463号バイパスが縦横断しています。また、県道川越・入間線、二本木・飯能線、富岡・入間線、青梅・入間線、所沢・青梅線があります。渋滞するのは、国道と県道の交差点、国道や県道を接続し抜け道となる市道が大半です。一般国道や県道の交差点改良(右折帯の設置、歩道の設置や拡幅、信号機の改善)により渋滞の改善や歩行者の安全の確保にもつながります。バイパスの具体的な計画のない一般国道及び県道の改良を重点的に取り組んでいただきたい。